



第722号
平成27年10月31日

陸上自衛隊
北部方面隊広報紙
発行：北部方面総監部広報室

総監要望事項
即 応
錬 磨
信 頼

北部方面隊
ホームページ
http://www.mod.go.jp/
gsdf/nae/index.html

北部方面隊創隊63周年記念行事

方面隊は、10月23日から25日の間、札幌駐屯地、真駒内駐屯地及び札幌市内において、北部方面隊創隊63周年記念行事を行った。行事は、23日及び24日に優秀隊員招待行事、24日に北海道殉職隊員追悼式、音楽まつり、前夜祭、25日に総監感謝状贈呈式及び祝賀会食が行われた。

【祝賀会食】

祝賀会食では、総監挨拶に続き、共催団体を代表し、北海道隊友会連合会、北海道自衛隊友会連合会、北海道自衛隊退職者雇用協議会、全国自衛隊父兄会北海道地域協議会との共催で、北海道内・外から約560名と昨年度より多くのご来賓の方々の出席を賜り祝賀会食が盛大に行われた。



祝賀会食において挨拶を述べる岡部総監



荒川北海道副知事による来賓祝辞

道の防衛・警備の任を引き継ぎ、以来63年間に541万道民の皆様と共に歩む方面隊として成長して参りました。これからの北部方面隊は、陸上自衛隊のDNAを継承する方面隊として北海道におけるあらゆる事態への対処、国内における各種事態への対処はもとより、グローバル及びアジア太平洋地域の安全保障環境の構築・改善への貢献、そして、北部方面隊のみならず、陸上自衛隊にとつて北海道の道場化や陸上自衛隊の将来のための部隊実験など陸上自衛隊の現在及び将来のための基盤の充実に、今まで以上に期待されることとなっております。故に、北部方面隊は北海道に隙のない防衛・警備態勢を確立・維持することはもちろん、国内外における各種事態に対



共催団体との合同による饗割り

【追悼式】

24日、真駒内駐屯地において、北部方面隊総監を執行者として、北海道殉職隊員追悼式が執り行われ、厳粛な雰囲気の中、殉職隊員301柱の御霊に対し哀悼の誠が捧げられた。

総監は「我が国周辺の安全保障環境が一層厳しさを増している現在、防衛省・自衛隊の活動範囲は、国内はもちろんのこと、国外においても様々な地域へと広がり、各部隊・隊員は、それぞれの使命を果たすため、あらゆる事態に即応する態勢を維持しつつ、日夜厳しい訓練に取り組んでおります。そして、これらの活動成果は、多くの国民



厳正な雰囲気の中行われた追悼式

【音楽まつり】

24日、札幌市内にあるニトリ文化ホールにおいて、北部方面音楽隊、第2音楽隊、第5音楽隊、第7音楽隊、第11音楽隊、北海自衛太鼓(第13施設隊、遠軽がんぼう太鼓(第25普通科連隊)が参加し、北部方面隊音楽まつりが行われた。



全音楽隊による合同演奏

歌斉唱に引き続き、第1章は、各師・旅団の音楽隊による音楽演奏により幕を開け、第2章では、北海自衛太鼓と遠軽がんぼう太鼓とのコラボレーションによる太鼓演奏、北部方面音楽隊による映画「プライベート・ライアン」のテーマ曲の演奏、方面隊内各音楽隊から選ばれた隊員と自衛隊の信号などを使用される



北海自衛太鼓及び遠軽がんぼう太鼓による太鼓演奏

第3章のクライマックスにおいて、北部方面音楽隊長村田3佐が方面隊内全音楽隊を指揮し「北部方面隊歌」をはじめとする合同演奏を披露すると会場の盛り上がりは最高潮に達した。当日は、2回公演で約3700名の来場者を記録した。

総合戦闘力発揮の練度向上を図る

方面隊総合戦闘力演習



第7師団主力による機動打撃

方面隊は、10月1日から12日までの間、方面総監を統裁官として、方面隊総合戦闘力演習（第7師団実動演習）を行った。

本演習は、第7師団に対し、方面隊が保有する各種戦闘支援機能を増強して、対上陸作戦における機動打撃の場面で機甲師団としての総合戦闘力の最大限発揮に必要な基盤となる練度の向上を図った。第7師団には、方面総監直轄部隊の第1高射特科団、北部方面施設隊、北部方面対舟艇対戦車隊、北部方面航空隊の一部を配属・協同させるとともに、転地演習で来道した東部方面隊隷下の第12旅団と協同し、北海道に上陸した敵部隊に対し機動打撃を行う想定で機別訓練及び総合訓練に区分して行われた。

また、総合訓練では職種協同訓練実施中の第1高射特科団、第1電子隊の訓練と連携させるとともに、さらに実動する部隊以外の行動をIC E

（指揮所訓練統裁支援システム）を活用したシミュレーションにより模擬し、方面隊の作戦として総合的に演習した。

8日、ヘリボンにより降着した第12旅団隷下の第30普通科連隊の1コ小隊が敵の侵攻経路の要所に急防衛し、阻止戦闘を行う中、9日早朝の師団機動打撃発動の命令により、戦闘展開を開始し

た第71戦車連隊が敵の侵入部隊へ攻撃を開始した。その後、第73戦車連隊が戦闘展開し、敵部隊を撃破しつつ攻撃前進を行い、第71戦車連隊の超越支援の下、師団目標への攻撃し、その任務を完了した。この間、北部方面対舟艇対戦車隊の96式多目的誘導弾（MPMS）による敵戦車への対機甲

した砲迫火力による攻撃前進支援射撃などにより、戦車部隊の機動発揮を容易にし、機動打撃の成功に寄与した。

11日は、総合戦闘射撃を行い、機甲師団としての一連の攻撃行動の場面を捉え、偵察隊の行動を砲迫、戦車、MPMSによる攻撃準備射撃、対機甲戦闘や92式地雷原処理車（MCV）による障害処理、第一線目標に対する攻撃などの射撃練度を向上させた。

方面隊は、9月28日から10月10日までの間、第1特科団長（徳川将補）、第1高射特科団長（木口将補）及び第1電子隊長（光井一佐）を担任官として、平成27年度方面隊職種協同訓練を行った。

第1特科団は、10月5日から10日までの間、矢別演習場において、情報と火力の連携、特に対砲兵戦における火力戦について練度向上を図ることを目的とし、特科団内の特科群、観測中隊、各師団の特科連隊、特科隊の他、東北方面隊から東北方面特科隊第30

4観測中隊及び第9特科連隊が訓練部隊として参加し行われた。

訓練では、作戦地域に進入し、広域に展開する敵の砲兵部隊をあらゆる観測機関・手段をもって標定し、速やかに目標情報に処理を行い、目標情報に基いたる一連の行動を演習した。また、今年度は、対抗部隊の火砲が射撃後、速やかに小移動、陣地変換を行うなどにより実践的な状況を付与し、これらに対応するための各部隊の観測・標定機関を運用させ射撃を

行する等昨年度より内容を充実させた。

第1高射特科団は、9月28日から10月9日まで、月28日から10月9日までの間、札幌駐屯地、空自三沢基地及び奥尻分屯基地、標葉分屯基地、奥尻島、上ノ国、松前地区において、方面隊の対空戦闘要領等について、対抗方式による実践的な対空戦闘訓練を実施するとともに、各師・旅団高射特科部隊等との協同戦闘要領を演習して、対空戦闘練度の向上を図ることを目的として、高射特科団内の高射特科群等、各師旅団の高射特科部隊と第

2高射特科団を始めとする全国の高射特科部隊及び航空自衛隊三沢基地が参加して行われた。

訓練では、第1高射特科団と航空自衛隊が保有する機材を連携して統合的見地から情報を共有する要領や空自航空機を巡る航ミサイル（CM）に見立て対空レーダにより捕捉する要領、空自の防空司令所（DC）の統制下で空自と連携した協同対空戦闘要領を演習した。

第1電子隊は、10月5日から12日までの間、北海道大演習場において、方面隊内の電子戦能力の発揮要領について演習し、練度の斉一を図るとともに、第7師団実動演習の場において通信的見地から職種協同に必要な事項について他職種部隊に周知して、協同部隊・被支援部隊等との戦闘力の組織化に関する練度を向上することを目的として、第1電子隊、第2師団、第7師団、第11旅団の電子戦部隊が参加して行われた。

特に、7日から10日までの総合訓練では、第7師団の実動演習と連携し、方面電子戦調整所による一元的な電子戦の統制を行い、第1電子隊を主体として通信電子組織を構成し、敵の侵襲部隊の通信電子情報を収集するとともに、各電子戦部隊による通信妨害組織を構成し、第7師団の機動打撃に最大限寄与した。

平成27年度方面隊職種協同訓練



総監訓練視察



射撃準備中のMPMS



FLVに搭載された79式対舟艇対戦車誘導弾の射撃



戦車回収訓練



203mm自走榴弾砲の射撃



第7特科連隊指揮所



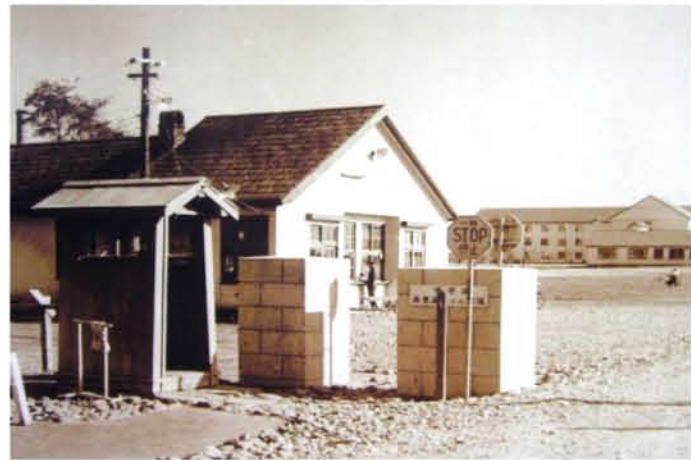
標定器材を展開する第1電子隊



展開中の目標搜索レーダー

北の駐屯地 その歩み

第22回 南恵庭駐屯地



昭和27年当時の正門付近

南恵庭駐屯地は、札幌市と新千歳空港のほぼ中間にあり、正門から花畑が通じ、メイン道路両脇には、恵庭市の木いちい(オシロイ)が立ち並び至る所に木々が生い茂る緑豊かな駐屯地で、総面積は札幌ドーム約九個分、外周は約4kmあります。

駐屯地は、昭和27年12月第1施設群が勝田(茨城県)から移駐し、北海道の施設科部隊のメッカとして開設されました。

昭和36年8月に第3施設団が創設され、更に平成2年3月には第73戦車連隊が北恵庭駐屯地から移駐して現在の駐屯地の態勢が整いました。

以降、平成20年3月の

第3施設団の北部方面施設への縮小改編、平成26年3月の第73戦車連隊の常備化改編等、幾多の改編を経て今日に至ります。

これまで駐屯地所在部隊が参加した国際平和協力活動等としては、平成5年3月のカンボディア派遣から始まり、ルワンダ難民救済国際平和協力隊、モザンビーク国際平和協力隊、ゴラン高原PKO派遣、東チモール派遣施設群、イラク復興支援隊、南スーダン派遣施設群、ジブチ派遣隊等日本が参加したほぼ全ての国際平和協力活動等に駐屯地から延べ466名が参加しました。また、昭和34年10月、伊勢湾台風から始まり、阪神淡路大震災、豊浜トンネル崩落事故、有珠山噴火、東日本大震災等道内外で発生した大規模自然災害への派遣活動においても中心的な役割を果たしました。

南恵庭駐屯地は、これらの多くの経験を糧に、



現在の南恵庭駐屯地本部隊舎

方面隊の活動への理解を促進 平成27年度第1回 方面隊オピニオンリーダー例会を開催

方面隊は、9月26日、札幌市内ホテルにおいて、平成27年度第1回方面隊オピニオンリーダー例会を開催しました。

今回の例会には、昨年度発足した方面隊オピニオンリーダー修了者の会である「北桜会」5名の参加を得て、総監講話を聴講頂くとともに、その後の懇親会でオピニオンリーダー、北桜会及び総監以下総監部参加者との懇親を深めて頂きました。

総監講話は、「我が国周辺の情勢と北部方面隊の対応」と題して行い、オピニオンリーダー及び北桜会の方々に、防衛問題及び方面隊の活動に対する理解の深化を促進しました。

総監は、昨今の国内外情勢や北部方面隊の取り組み等について、時にユーモアを交え講話し、オピニオンリーダーからの質問に対し丁寧に答えていました。また、懇親会においては、和気藹々の雰囲気の中、懇親を深め、その中で、今後の北部方面隊の活動において参考となる貴重なご意見をいただき、例会は、盛会のうちに終了しました。

オピニオンリーダー例会については、年度で2回計画されており、その都度、活動状況等を説明し、様々な方面へ普及して頂くことを願っています。



オピニオンリーダー及び北桜会との記念撮影

北部方面隊史 我らここに励みて 國安らかなり 第4回

警察予備隊時代その1 (混迷)

陸上自衛隊の前身である警察予備隊は昭和25年8月10日その産声を上げた。その任務は「治安維持のため特別の必要がある場合において、内閣総理大臣の命を受け行動するものとする」であり、明らかに国家地方警察や自治体警察とは性格が違っていた。

昭和25年7月8日にマッカーサー総司令官の書簡を受領以来、日本政府は新しく設置される警察予備隊の性格が明らかでないこと、従来の警察との関係等の疑問について政府の意見を具して総

司令部側と数回にわたって協議を重ね、その意向を十分に確かめた。

その結果、警察予備隊は、従来の国家地方警察や自治体警察とは全く別の組織の内閣総理大臣直属の警察隊であること、そしてその使命は、必要に応じて随時随所に出動し、治安確保のために重点的に運用されるものであること等を確認した。

同年7月14日、総司令官は、警察予備隊の育成指導のため、部隊及び機関に対する初期の助言と援助を行うことを任務とする米軍顧問機関を総

司令部に設置し、直接警察予備隊の創設業務に協力させた。

同年7月17日、総司令部から大綱が示され、組織の編成等は日本政府が立案することとなり、責任者を当時の香川県知事とし、労働次官、国警本部総務部長、建設省監警察官等を加え、創設準備に専念させた。総司令部から示された大綱の概要は次のとおりである。

一 その性格は、事変暴動等に備える治安警察隊

二 中央に本部を置き、全国を4管区程度に分け各管区に部隊を置く

三 内閣総理大臣の直轄とし、その下に専任の国務大臣を置く

四 総理大臣は、本部長官を指名し警察予備隊を統率する。

五 治安警察にふさわしい機動力、装備を持つ

以上の大綱をふまえ、政府は顧問機関と協議を重ね、同年8月4日、本部を東京に置き、全国を数管区に区分すること、内閣総理大臣の直轄とし、本部長官が全部隊を統率すること、治安維持に必要な装備と機動力を持たせることなどの原則が決定した。また、隊員の募集が開始され、その業務は、国家地方警察本部が全面的に担当することとなり、総司令部との折衝の結果、一般隊員の募集の発表は8月9日に、入隊日を8月23日とし、隊員の募集に先立ち開始した。国家地方警察本部は、警察予備隊の編成整備等が従来の警察とは明らかに相違があること、将来の国際情勢の推移により警察予備隊が次第にその性格を変え成長する可能性のあることなど、その重要性を十分に認識

人生に潤いを与える言葉

『菜根譚』の語る人生の生き方は、常に心を明徹(めいてつ)にして、
真実を見極めるようにというのです。

てんきせいせいつ きようじれいろう
天機清徹、胸次玲瓏にして、
物に触れて皆会心の処あらんことを要す。
(「菜根譚」・後集7)

即ち、「心の働きを清澄明徹(せいめいめいてつ)にして、胸中はあまり曇りのない玉のようにして、触れて見たもの、聞いたものがそのまま宇宙の真実に他ならないことを、心にしっかりと留めておくことが必要である」というのです。

宇宙の真理、天地の大道が即ち仏心の発露であることを各人が自悟自得することではないでしょうか。

古徳(昔の名僧)云う。
“山の色 淡(たに)のひびきも みな我が
釈迦牟尼仏(しゃかにぶつ)の声と姿ぞ”と。

心の健康相談 メンタルヘルス・カウンセラー
根本和雄

広尾町の十勝港において多用途支援艦「すおう」艦艇広報

帯広地本

自衛隊帯広地方協力本部は、10月12日、十勝港（広尾郡広尾町）において海上自衛隊大湊地方隊所属の多用途支援艦「すおう」の艦艇広報を実施しました。

天候に恵まれたこの日、広尾町民をはじめ遠方より多数の地域住民が訪れ、一般公開では、乗員の丁寧で分かりやすい説明に約300名の来艦者も大満足の様子で、海上自衛隊艦艇部隊の存在しない道東地域において所望の広報効果を得ることができました。

また、帯広地本広報コーナーでは、募集広報パンフレットや募集広報グッズ等の配布を実施し、幅広く陸・海・空自衛隊のPRを行うとともに各種自衛官等の募集活動も実施しました。

帯広地本は、これからも地域と部隊の架け橋として積極的に艦艇広報を行い、地域住民が自衛隊をより身近に感じて頂けるよう活動を行ってまいります。



一般公開を待ちわびる来場者

「ましゅう」の大きさに驚嘆！ 室蘭港で補給艦「ましゅう」艦艇広報

札幌地本

自衛隊札幌地方協力本部は、10月3日及び4日の2日間、室蘭港中央埠頭において海上自衛隊第1海上補給隊所属の補給艦「ましゅう」の艦艇広報を行いました。

この2日間は、海上自衛隊で2番目の大きさを誇る補給艦「ましゅう」を一目見ようと室蘭市内のみならず、札幌をはじめ各地から約1,800人が一般公開に訪れました。

また、艦長の計らいで抽選で20名が艦橋を見学できるイベントも2日間で5回行われ、当選者は見学後、「見た目の大きさにも驚きましたが、艦橋の高さにはさらに驚きました！」「艦橋からの眺めは最高でした。貴重な体験ができてよかったです！」等と大興奮の様子で語っていました。

このほか札幌地本広報ブースでは、自衛官募集チラシの配布、アンケート、ミニ制服の試着、ローワーク展示及びDVD上映を行い自衛隊の魅力を伝え、特にミニ制服の試着コーナーでは、多くの親子連れが「ましゅう」の前で記念撮影を楽しむ姿が見られ終始賑やかでした。



乗艦を待ちわびる来場者

大型商業施設で自衛官募集作戦を展開！

函館地本



メディアランナーとコラボで募集広報

自衛隊函館地方協力本部は、10月12日、体育の日に市内の大型商業施設「ドン・キホーテ」の前庭広場に広報ブースを設置しメディアランナーと併せ自衛官募集の市街地広報を実施しました。

訪れた買物客は募集案内やパンフレット・グッズを手に取り、また、ミニ制服のコーナーでは試着を楽しみながらメディアランナーの大画面に見入っていました。今回は、自衛官募集も継続していることから募集相談コーナーも設け、広報官を配置して中・高校生等に自衛官の募集について説明するとともに広報アンケートにも快く応じて頂きました。

さらに、道南地区自衛官志願推進協議会函館支部の5名の募集相談員がこの広報に合わせて施設内で「自衛官募集案内テッシュ」の配布協力支援を頂きました。今後も地本、募集相談員が一体となって募集作戦を展開し、引き続き募集を継続して行きます。

平成27年度予備自衛官等雇用企業主等連絡調整会同開催

旭川地本



会食

自衛隊旭川地方協力本部は、10月4日、旭川駐屯地において「平成27年度予備自衛官等雇用企業主等連絡調整会同」を実施しました。

会同の冒頭に本部長及び第52普通科連隊長が挨拶し、平素の即応予備自衛官の雇用及び招集訓練出頭への協力について感謝の言葉を述べました。

続いて、駐屯地北グラウンドで第52普通科連隊が行っている格闘、衛生及び通信の訓練を研修しました。

午後からの意見交換会では、参加企業主等から即応予備自衛官制度に関し、「招集訓練について、選択肢を増やす観点から、平日、休日を含めて実施回数を増やしてほしい」等の意見が寄せられ、有意義な意見交換の場となりました。今後も自衛隊旭川地方協力本部は、即応予備自衛官制度の理解促進及び定着のため、あらゆる機会を活用し、予備自衛官等制度を普及していきます。

総監感謝状受賞者

- 一般功労
 - 池部 彰・魚井 郁生・梅尾 要一・越前 一
 - 河辺 由清・佐々木修一・笹山 武市・高津 紀正
 - 瀧沢 靖六・谷川 睦子・藤井 宏・藤田 稔
 - 森家 隆司・前田 康吉・丸岩 公充・巴子 保
 - 森谷 武・矢野 晃敏・山本 賢一
 - 名寄自衛隊協力婦人会
- 自衛官募集功労
 - 自衛官募集功労
 - 河井 姫美・高橋 稔・棟方 泰雄・山田 定雄
- 就職支援功労
 - 株式会社ジョイント・システムズ・サービスサポート本部 北海道支援センター
 - 株式会社ヘルテック・帯広営業所
 - 株式会社むららん東郷
 - 上富良野町役場
 - 社会医療法人 函館博愛会 函館渡辺病院
 - 社会福祉法人 光輝会
 - 西濃運輸株式会社
 - 千歳自動車総業株式会社
 - 北海道シエイ・アール運輸サポート株式会社旭川事業所
 - 有限会社東監清掃社
- 予備自衛官等雇用功労
 - 旭川電気軌道株式会社
 - 旭川郵便送達株式会社
 - 株式会社テック・ソフトウェア
 - 株式会社 函館 小型運送
 - ヤマカ運輸株式会社
 - 山登運輸株式会社
 - 西野日産業株式会社ホテル大雷グループ (敬称略)

【優秀隊員招待行事】



優秀隊員個人表彰

23日及び24日の2日間、札幌市内のホテル、札幌駐屯地及びニトリ文化ホールにおいて、職務遂行に功績のあった隊員とその家族を招待して、その功績を顕彰する優秀隊員招待行事が行われた。23日午後にはヘリコプター体験乗乗を実施し、その後札幌市内ホテルにおいて総監招宴が行われ、総監より褒賞状と記念品が授与された。その後、招宴の場では総監夫妻が各テーブルを回り、隊員一人ひとりに声をかけ、功績をたたえ

るとともに、「ご家族に対して感謝と慰労の気持ち」を伝えた。優秀隊員とご家族は24日、音楽まつりに招待され、音楽演奏を堪能した。

【感謝状贈呈式】



感謝状贈呈

25日、札幌駐屯地において総監感謝状贈呈式が行われた。各部隊長及び総監部幕僚長以下が参列する中、永年にわたる防衛基盤の育成、退職自衛官の就職支援協力や自衛官募集協力等において著しい功績のあった個人及び団体に感謝状を贈呈した。今年度は、一般功労19名、1団体、自衛官募集功労4名、5団体、就職支援功労10団体、予備自衛官等雇用功労7団体に合計46の個人及び団体に感謝状を贈呈した。

優秀隊員	表彰	氏名
第25普通科連隊	2等陸曹	松田 有輔
第26普通科連隊	准陸尉	大西 泰司
第2化学防護隊	1等陸曹	日野 誠吾
第7特科連隊	准陸尉	澤田 茂
第7後方支援連隊	准陸尉	山田 正博
第6普通科連隊	准陸尉	佐々木 和博
第6普通科連隊	陸曹長	日下部 英敏
第10普通科連隊	1等陸曹	多田 好輝
第3地对艦ミサイル連隊	准陸尉	大山 山悟
第52普通科連隊	3等陸曹	吉村 優一朗
北部方面後方支援隊	即応予備2曹	豆 幸智子
北部方面後方支援隊	准陸尉	新関 信之
第1電子隊	陸曹長	菅原 稲美
北部方面情報隊	陸曹長	荒巻 学
日高弾薬支処	准陸尉	北嶋 繁
自衛隊旭川地方協力本部陸曹長	陸曹長	恵良 直壽
自衛隊旭川地方協力本部予備曹長	准陸尉	恵良 直壽

編集後記

10月23日から25日の間に開催された北部方面隊創設63周年行事において、多数の皆様からお祝いのお言葉等を賜り、深い感謝申し上げます。◆10月の英語名は「October」と言いますが、「第8の」という意味の「Oct」が語源であると言われております。なぜ、10月が第8の月なのか？紀元前まで使用されていたローマ暦では3月が最初の月であり、そこから数えて10月が8番目であったからだとされています。◆同じように日本にも10月に関する伝承があり、その異称を「神無月」と言います。この異称の由来には諸説あり、これといって有力な説はないようですが、全国的神々が1年のことを話し合うため、出雲大社に集まり出雲以外に神がいなくなるから「神無月」と命名されたという説が残っています。◆無月」と命名されたという説が残っています。◆出雲地方では、神が集まることから「神在月」と言うそうですが、俗説とはいえ、神々ですら重要なことは話し合っていて決まっていたと伝わっていることから、やはり日本人は「和」を大事にする民族なのでしよう。◆会議等の場は、物事を決める以外にも組織の活性化等を図るため、参加者の意見や助言などを拝聴する機会としても活用します。方面隊も創設記念行事を通じて関係者各位、諸先輩から貴重なご意見や叱咤激励を頂戴しました。これらの意見を活かし、より精進な方面隊を目指してまいります。